

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成 24 年 6 月 15 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	れんげの里		
サービス種類	(予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒584-0084 大阪府富田林市向陽台1-4-16		
自己評価作成日	平成24年5月15日	評価結果市町村受理日	平成24年7月20日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非活動法人 評価機関 あんしん
所在地	〒596-0808 大阪府岸和田市三田町 1797
訪問調査日	平成24年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意志及び人格を尊重し、出来ない事はお手伝い、出来る事を見出し見守るケアを理念とし家族様や地域の方々への理解を深めその人のリズムに合わせた生活の場を提供することに努めています。又、隣接する提供医療機関とは24時間の対応が可能であり緊急時でも安心していただけます。職員は終末期の看取りケアにも対応可能で重度の認知症状の方でも寄り添いながら個別の対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームケア・プラザれんげの里」は近鉄富田林駅からバスで10分、向陽台前バス停からすぐの所に位置し、近くに医療機関、市の複合施設(けあぱる)、小・中学校、ショッピングセンター、コンビニエンスストアがある。事業所の裏には池があり、公園にも近く緑の多い環境下にある。緊急医療や終末期医療にも協力的な内科クリニック(協力医療機関)が隣接しているため、安心してケアに取り組むことが出来る。建物の1階、2階でそれぞれのユニットを運営している。理念が実現できているか常に意識しながら、ケアに取り組んでいる。自宅に居るように自然に生活出来ることを目標とし、開設者の食に対するこだわりから、生活協同組合で1週間単位の食材を購入し、利用者の楽しみごとの一つである食事に重点を置いている。在庫食材の状況と利用者の希望を勘案して当番の職員がメニューを考え、調理をして全員で賑やかに食事を楽しんでいる。お天気のよい日は散歩や買い物に出掛けるなど、利用者本位のケアに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、職員は毎日ノートにて実践出来たかどうか確認を行っている	法人の理念として、「付き添い寄り添い見守るケア」「出来ないことはお手伝い、出来ることを見い出すケア」「言葉使いは尊敬と意をこめて、やさしくゆっくり」「好みの献立を、温かいものは温かく、冷たい物は冷たく」「散歩・買い物の励行」を掲げ、職員は1週間ごとに理念に基づく介護が実践できたかどうか自己判断し、毎週管理者に報告している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の色々な催しに参加させて頂き交流を図っている	町会に加入し、地域との繋がりを大切にしている。職員が町会の仕事、行事に係わるなど、地域との繋がりを大切にしている。利用者は町会の盆踊りなどには参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談ポスターなど地域の方の店先などに掲示させて頂き貢献している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取組状況等について報告し、皆様のご意見を参考に次に生かす様にしていきます	運営推進会議には法人代表、管理者、家族代表、介護支援専門委員、町会長、組長、隣接医院の院長、が参加している。最近の開催は3、4ヶ月に1回となっている。また、最近では町会長の参加は得られていない。会議では主に行事の報告や予定を報告している。災害時の地域との協力について依頼をしているが、体制を作るには至っていない。	運営推進会議の開催は、2ヶ月に1回を目標とし地域の代表の参加も得られる様に努力して頂きたい。運営推進会議は事業所の報告に終わらず、活発な意見交換の場となるように期待したい。又議事録に出席者、欠席者、議題、討議内容等を記録し日々のケアに活かされることが望まれる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	取り組みの相談やその他会議など積極的に参加し協力関係を築くようにしている	市の担当者とは積極的に連絡を取り、空室情報の提供や困難事例の相談等を行っている。同業者との連携や地域で行っている安心できるまちづくり活動など積極的に参加している（例：南河内圏域市町村徘徊高齢者SOSネットワークのステッカーを車に貼り付けている）		

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はベルに替え、鍵を無くし身体拘束については各自研修などで積極的に理解を深めるよう努めている</p>	<p>玄関は施錠していない。門の外は隣接するクリニックの駐車場となっており、車に出入りの多い道路に面しているため、門扉は施錠している。外出願望がみられる利用者に気づいたら職員同士で連携し、利用者が落ち着けるように周辺を散歩する等の支援をしている。身体拘束について、定期的に研修会を開催している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は外部研修等で学ぶ機会を持ち、主治医とも相談させて頂き、夜間宿直体制をとり勤務者が一人にならないように徹底している</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月1回のミーティングや外部研修等で理解を深め関係者と話し合い活用できるように取り組んでいる</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護保険制度及び事業所のサービス内容について資料を用意し、入居者様やご家族様に説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第2日曜日を家族会として来里された方の意見を聞かせて頂き、その意見を反映した業務に取り組んでいる</p>	<p>家族の意見を聴きとるために家族会の日を設定し参加できる家族が集まり、介護支援専門員と職員が意見や要望を聴き取り、ケアに反映するように努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月1回のミーティング時には、職員からの発表の場もあり、自由に意見や提案を話せる機会がある</p>	<p>月1回のミーティングを1階、2階それぞれのユニットで開催し、法人の代表者も出席し、自由に話しの出来る環境が出来ている。出された意見や提案は業務やケアの改善に繋げている。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>内部研修、外部研修の機会を持ち、各自向上に努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修、外部研修に参加できる様声かけと機会を設けている。他地域の研修にも参加できる様に情報収集・公開を行っている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>なわなワネット研修での施設部会や管理者交流会などで、伝達研修を行っている。パンフレットなどの交換も行っている</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>しっかりと話を聞き、受け止めることで信頼関係を築き心を開いてもらえるよう努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>細かくわかりやすいように説明し納得して利用して頂けるように努めています。また、笑顔で受け入れるように努めています</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援はもちろん、要望を確認し他のサービス利用に努めている</p>		

18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達の先輩として傾聴し苦勞されたこと、子育てのやり方など多くを学ばせて頂いております。さらに特技や趣味なども学ばせて頂いております		
19	○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの中での出来事や昔話を聞かせて頂き御家族様と一緒に支援させて頂いております		
20	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なれんげ通信を発行し行事など本人様の写真を掲載し家族様に様子を伝え、なじみの店へ買い物も行っている	家族と墓参りや、美容院に出かけ、一緒に過ごせるように支援している。職員は利用者と一緒に馴染みの店へ買い物に行くなど、希望に応じて支援している。知人の来訪もある。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動の援助の強化、利用者様同士の趣味の共有などを考え、席が隣り合わせにする等配慮をしている		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もスーパーなど近隣で出会う事があり家族様から相談を受けることが多々あります		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りコミュニケーションをとり、その中から得るようにしています。朝一番のコーヒーなど一人一人の今迄の暮らしに合わせたケアを行っている	職員は利用者担当制としており、主として担当職員が利用者の思いや希望を聴き取っている。利用者から得た要望等は、職員全員で把握し共有している。起床時間は自由で、朝食時には利用者の好みの飲み物を提供したり、夜は希望に合わせて午後9時頃まで居間で自由に過ごし、本人の希望を優先させながら、本人本位に過ごせるように支援している。	
----	---------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

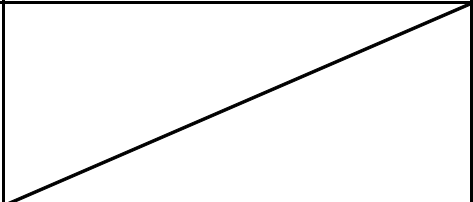
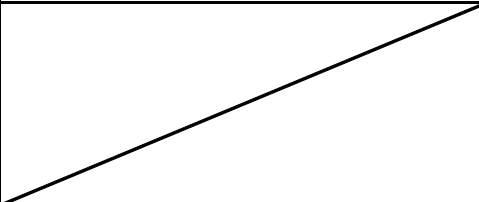
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本情報の把握と日々の会話の中で、くみ取り反映するよう努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中で把握し支援している		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見を尊重しつつ職員が意見を出し出来得る限り本人様の希望を優先させる介護計画にしている	利用者や家族の意見を尊重して介護計画を作成している。1ヶ月単位でモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。サービス担当者会議には家族に参加を呼びかけているが出席はないため、家族の来訪時に意見、要望を聞いて見直しの際に組み入れている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化ノート、急変ノートを使い、申し送り等で情報を共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々個別観察に力を注ぎ利用者様の都合に合わせたサービスをしています		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験学習の受け入れ、運動会への参加見学、ぴあ介護相談員の方にも協力頂いております		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	家族様が希望される医療を受診されてい る。また、専門医に診て頂けるよう支援 しています	通院等の利便性から、ほとんどの利用 者は隣接するクリニックの医師をかか りつけ医としていて、2週間に1回の 往診を受けている。以前からのかかり つけ医には主に家族が通院介助をして いる。また、皮膚科、眼科等の受診は 職員か、家族が通院を支援している。 受診の結果は介護支援専門員が家族に 電話や手紙で連絡し情報を共有してい る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるよう支援し ている	定期的診察や往診された時などに気付い た事を医療連携ノートを作り記入してお きそれを伝え支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医との話し合いによ り利用者と家族の要望を反映している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や 状態が悪化した時、主治医を交え医療連 携体制と看取り指針を作成確認し、支援 しています	入所時に、状態が悪化しても生活の支 援をすることを説明している。実際に 状態が悪化してきた時は、かかりつけ 医と家族、看護師、職員等で看取り指 針を確認し、24時間体制で状況の変化 に対応している。不測の事態に対応で きるよう夜勤帯は各ユニットに毎日夜 勤者と宿直者1名ずつ（計4名）を配 置している。今までに数人の利用者を 看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全 ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行い、実践力を身に付けている	急変時ノートを作り全員で共有してい る。事故発生時、発生後も反省会を開き 報告書を作成し内部研修にて話し合いを もっている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問 わず利用者が避難できる方法を全職員が身 につけるとともに、地域との協力体制を築 いている	消防署の指導により避難訓練等年2回実 施しており、緊急連絡網など用意してい ます	火災・地震を想定して職員全員で防災 訓練を年2回実施し、役割や設備、避 難経路、消火器の使い方等を確認して いる。設備として火災通報器、スプリ ンクラー等は設置している。夜間は宿 直者も配置され、運営推進会議を通し て災害時の協力を依頼している。食料 品、飲料水は備蓄をしてない。	運営推進会議で災害の協力依頼をして いるが、具体的に話し合いを進め協力 体制を整える事が望まれる。また災害 時の飲料水や食料品の備蓄の準備も必 要と思われる。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人の人格を大切にし、マニュアルなどを作り理念を重んじたポジティブな言葉掛けに努力しています</p>	<p>入職時に理念の意味や守秘義務等について説明をし、年1回プライバシー保護について内部研修をしている。利用者には人格を尊重し名字で呼び、言葉かけや対応には理念に基づいた支援に取り組んでいる。個人記録等は管理室の鍵のかかる戸棚に保管している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人様の思いや希望を特に大切にできるよう職員全員が受け止め本人様が納得できる様努めている</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>散歩、昼寝、入浴など一人一人のペースに合わせて強制しない自由にして頂く支援を行っています</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>モーニングケア時御自身で髪の毛をといて頂いてます、時には全員に化粧をして鏡をご覧になられ、ホームに美容のプロの方に出張して頂いてます</p>	
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>理念通り温かい物は温かく、冷たい物は冷たく嚙下に気遣った大きさや味付け、利用者様と一緒に準備や片づけを楽しみながら行っています</p>	<p>食材は1週間分を生活協同組合から購入し材料の不足分はその都度、近隣で購入している。年4～5回は外食に出掛けている。複合施設（けあばる）での寄席の鑑賞時や公園での花見の際の昼食は弁当にしており、利用者には楽しみとなっている。事業所ではソーメン流し、屋台でのたこ焼やおでん等食事の形態に変化が持てるようにしている。2階の利用者には手伝いカレンダーがあり、後片付け等出来る事は行っている。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べられた量、水分摂取量の少ない人にはどう対応すればよいか手探りですが個別に対応した支援をさせて頂いております</p>	

42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導を徹底しています		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間をきめてトイレ誘導することにより失敗を防いでいます	おむつ使用者は3名、他はパットを使用している利用者が多い。排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。コミュニケーションをとるのが困難な方にはお腹に手を持っていくしぐさで排泄に誘導する等工夫している。夜間は3人がポータブルを使用している。便秘がちな利用者には水分を多く摂るよう配慮している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の便通に応じた対応をしています。便秘体操にも取り組んでいます		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調など考慮しながらあらかじめの予定は決めておりますが、本人が入りたい時に入浴して頂いております。タイミングに合わせて支援しています	週2回午後からの入浴を基本としているが希望者には随時入浴可能としている。車椅子使用者や重度者には移乗時に2人で介助をしている。入浴の際には急な血圧上昇を予防するため湯温に配慮し、湯の中は最長3分以内と決めている。入浴を拒む人には洗髪や髭剃り等を勧めるが、月2～3回の入浴となる時もある。個々に応じて支援している。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望を優先しています。一人一人に合わせて朝ゆっくり寝たい人には朝食など遅くする支援をしています		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ノートなどに個別に記入して副作用など薬の説明をもって支援しています		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活リハとして個々にお手伝いなどして頂き又レクリエーションなどで役割を分担し利用者様が楽しめるよう支援しています</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日天気さえ良ければ、散歩に出かけます。本人の希望を把握し外食にも出かけています</p>	<p>お天気のよい日には散歩に出掛けている。週2回程度、近隣の複合施設まで車椅子を押し歩行可能な利用者1～2人と一緒に出掛けている。行事では全員がお花見に出かけている。馴染みの店に買い物に出かける等の支援も行っている。墓参り等は家族が協力している。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理など生活リハに向けて近くのお店などを利用又は自販機を利用し金銭IADL強化に努めています</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を散歩時に投函して頂いており、電話も自身で掛けられる方は自由にできるよう支援しています</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りカレンダーや馴染みの写真の掲示など生活感を取り入れて工夫しています</p>	<p>居間兼食堂のテーブルは、形も大きさも異なり利用者の状態に応じて座りやすいように窓側や台所の壁につける等、利用者同士の関係に配慮して配置している。事業所内は温かい雰囲気があり、楽しそうな笑い声が広がっていて、利用者の作品を展示する等穏やかに過ごせるような環境作りをしている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングでの机の配置など居場所の工夫をしています。気の合う方同士が話せる工夫をしています</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より持ち込みのカレンダー又は家族様の写真を貼ったり持ち込まれたり工夫しています</p>	<p>居室は明るく畳の和室にベッドを置いている。ベッド、テレビ、布団、クーラー等が備え付けてある。窓側はカーテンではなく障子をはめられている。また、大きな押入れがあり、衣類等整理をしている。使い慣れた整理タンス、仏壇、家族の写真等持ち込み利用者が居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立に近い生活が出来るように工夫しています</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない